

産業観光  
きりゅう紀行 ⑨



大谷石と丸窓、煙突  
オシャレな外觀

## 旧曾我織物工場 (佐啓産業本町工場)

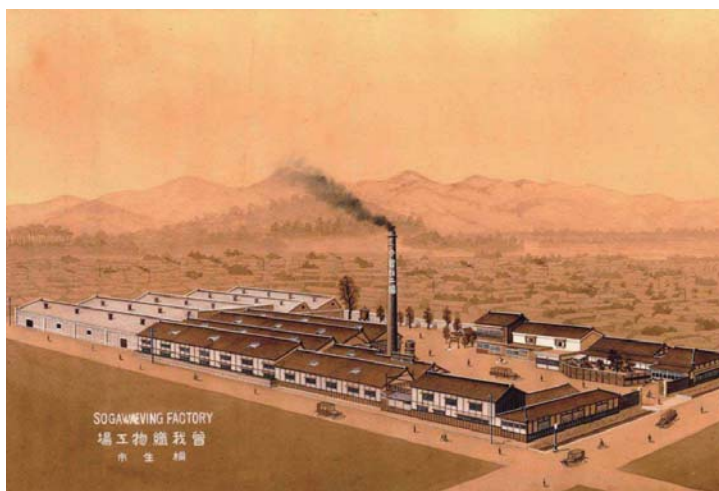
本町一丁目と二丁目とを分ける横山町の路地を西に入ると間もなく旧曾我織物のノコギリ屋根工場がある。外壁には大谷石が積まれ、5連のノコギリの歯ごとに丸窓が付き、鉄板葺きの屋根には煙突が立つ。その姿の美しさは市内でも屈指である。

曾我家の初代助松氏は能登半島（石川県）出身の人で、一大決心をして15歳の頃、知人を頼り桐生に来て、糸屋に奉公し苦勞の末、機屋として自立した。最初は木造の旧工場で操業し、大正11年（1922）に現在のノコギリ屋根工場を建て、銘仙を織り声価を高めた。昭和の時代に入ると、二代目の喜一郎氏は中国向けの輸出織物の生産を始め、後に生産品は天覧の栄えに浴したという。

大正末期から昭和初期にかけて描かれたと思われる鳥瞰図から、奥のノコギリ屋根工場、手前奥の住宅と蔵、南の建物（伝建まちなか交流館）が現在残っており、中央部のノコギリ屋根工場と煙突が撤去されていることが分かる。

現状は、佐啓産業が建物を借り受け、本町工場として使用されているため、内部を見学することは出来ないが、端正な様式美と本町通りから極めて近い立地にあることで、ノコギリ屋根のある風景を求めて桐生を訪れる人たちにとっては格好の見学場所となっている。

（参考：きりゅう百景・佐々木正純氏、桐生新町織物産業史近代建築図）



●所在地：桐生市本町1丁目7-15